

# スクールカウンセラーだより

第3号

令和8年1月20日発行

白井市立白井中学校

スクールカウンセラー

白井中学校の生徒の皆さん、保護者の皆様、2026年も白井中学校相談室をよろしくお願ひします。

2026年は「丙（ひのえ）」「午（うま）」の年です。丙（ひのえ）は、十干の3番目で「火」の要素を持ち、太陽や明るさ、生命のエネルギーを表すとされます。また午（うま）は、古くから人間と共に生きてきた動物。俊足を持ち、独立心が強く、また人を助けてくれる存在です。そのため丙午（ひのえうま）の年は、「勢いとエネルギーに満ちて、活動的になる」と年と考えられます。新しい年が、一歩一歩着実に前へ進んでいけるような一年となると良いですね。

今回のお便りでは、『集団の中のいじめ』というテーマでお話をしたいと思います。

2025年12月に栃木県の公立高校のトイレで男子生徒が別の男子生徒に暴行を加える様子を撮影した動画が、2026年1月以降、SNSで広く拡散されました。学校は、暴行行為を認め「いじめに該当する疑いもある」との認識を示しました。この動画はSNSで急速に拡散され、再生回数は1億回を超えたと報じられています。ネット上では加害生徒とされる人物の氏名や住所など真偽不明な情報が特定され拡散されるという「ネット私刑（リンチ）」の状態となり、これが「二次加害」であるとの指摘も出ています。

動画が取られた経緯は不明ですが、これは単に加害者と被害者だけではなく、周囲の友人や、個人を取り巻く集団が深く関わる現象なのではないかと感じたのは私だけでしょうか。実際、動画には周囲で他の生徒がはやし立てる様子が映っていました。この動画を目にした皆さん、何を感じましたか？

多くの場合、「いじめる側（加害者）」と「いじめられる側（被害者）」という二者関係に注目が集まりがちですが、実際にはいじめはもっと複雑な構造の中で起きています。その構造を四層として捉えた考え方が、社会学者である森田洋司氏によって提唱された「いじめの四層構造」です。「いじめの四層構造」は、いじめ行為に直接関わる当事者だけでなく、周囲で見ている子どもたちも含めた、被害者、加害者、観衆、傍観者の4つの役割に分類して捉える考え方です。観衆や傍観者は、いじめへの直接的な関与度は低くなりますが、その存在はいじめの存続と拡大に深く関わっていると言われます。森田氏は、傍観者の層から、仲裁者が現れる、あるいは直接止めに入らなくても否定的な反応を示せば、「いじめる子」への抑止力となると述べています。いじめの起こる集団は、誰にとっても安心・安全な環境とは言えません。皆さん一人一人が、いじめをなくすために、自分に何ができるのか、今一度考えるきっかけにしらえたらと思います。

カウンセラーは、皆さんのが悩みとうまく付き合っていく為の、お手伝いが出来ればと考えています。

保護者の皆様のご来談もお待ちしています。お気軽に相談室にお越しください。

## ●スクールカウンセラー来校予定日（春休み前まで）●

※時間：11:00～17:00

1月 13日（火）	2月 3日（火）	3月 3日（火）
20日（火）	10日（火）	
26日（月）	17日（火）	
	24日（火）	

※原則火曜日に来校しますが、1月26日のみ月曜日となります。

また、今後予定が変更になる可能性もあります。ご注意下さい！！



今年もよろしく  
よ·願·い·ま·す